

中学校

教科【社会】

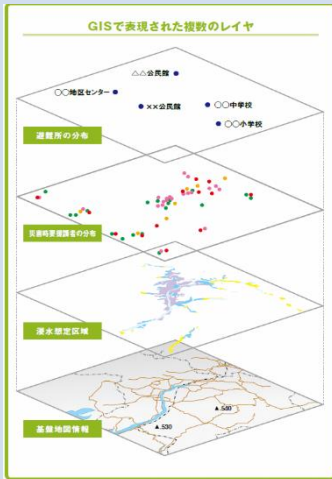
単元【地理的分野：日本の特色と地域区分】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

身の回りの地図や航空写真と標高メッシュデータを重ね合わせながら、身近な地域についての情報を比較したり、関連付けて読み取ったりする。

ICT活用のポイント

身の回りの地図や航空写真と標高メッシュデータを重ね合わせながら考察することで、自然災害が発生しやすいことや、防災対策の大切さについて理解することに繋がる。

使用するICT機器	PC、タブレット	使用するアプリ・クラウドサービス等	G Suite (Google classroom)、地図太郎、Google Earth™
クラウドの活用	☒ 教材の配布・回収等 ☐ 生徒の学習状況の把握	☒ 資料等の共有 ☐ その他（ ）	
本時のねらい	津波からの安心・安全避難マップの作成に向け、様々な地図を重ね合わせて学校や通学路を書き込み、安全な避難ルートを考える。		
	主な学習活動 (学習場面)	ICTの活用・留意点等	評価
導入	○本時の学習課題を確認する 一斉 ○前時の内容を振り返る	Google Classroomにアクセスし、前時の確認と本時の学習課題を確認する。 クラウド 各自、前時に学習した地域のハザードマップについて確認する。 指針2	
展開	○安全避難マップについての説明を聞く 一斉 ○シミュレーションを行う 個別 協働 ○考察結果について話し合う	GIS（地理情報システム）を用いて作成した複数のレイヤ（※）をGoogle classroomから各端末にダウンロードさせ、プロジェクトで提示しながら重ね合わせる方法を説明する。各自がレイヤを重ね合わせ、身近な地域の安全性や避難所の位置等から安全な避難ルートを考察する。 指針3  グループ内で考察結果を共有し、身近な地域の自然災害発生危険性についてGoogle Classroom上の、共有シートに書き出す。 指針4	ICT機器 ※レイヤとは、現実世界に存在する地物(例：建物、道路、河川など)や事象(人口分布、天気、渋滞情報など)をGISで管理・表現するために、主題ごとに分類したそれぞれの「層」を指します。 【思】シミュレーションを通して身近な地域の安全性や避難場所までの移動時間について考え、表現している。 ここで評価 クラウド 指針6
終末	○本時の振り返り 個別	フォームで作成した振り返りアンケートに回答（自動集計結果を教師が確認） 指針6	

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。

※ 評価の観点 【知】＝知識・技能 【思】＝思考・判断・表現 【態】＝主体的に学習に取り組む態度